

高静圧ダクト形・給気処理ユニット 据付工事説明書

PJG012D026
201903

三菱重工

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載しております。

電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。

室外ユニットの据付方法は、ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。

室外機に接続できる給気処理ユニットは、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。

また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。

給気ユニットの場合

●他のエアコンユニットとの全接続容量は、50～100%（全給気処理ユニットの容量）にしてください。

●単独で給気処理ユニットを接続することができます。給気処理ユニットの接続容量は50～100%にしてください。

室外機に接続できる給気処理ユニットは、最大2台です。

●この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また海外においてはアフターサービスもできません。

This product is designed for use only in Japan and cannot be used in any other countries. No servicing is available outside of Japan.

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**△警告**、**△注意**、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**△警告**の欄にまとめて記載しています。しかし、**△注意**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。◎絶対に行わない！必ず指示に従い行う！
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・手お仕の仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
- この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくよう依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

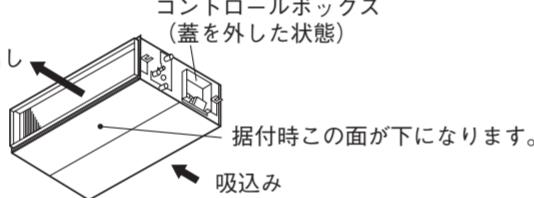
△警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 屋外屋根に据付けた場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 据付工事品は必ず付属品および指定の部品を使用する。当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。冷媒が火気に触ると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
- 強風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。空気などを混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- 電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がりないように整形し、カバーを確実に取付ける。カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていなことを確認する。冷媒ガスに漏れると、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触ると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR32またはR410A専用のものを使用する。既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付けする。フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏による恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- 据付工事では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。冷媒配管を取付け終わると、圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- ポンプダンパー作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
- 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。自分で取り付けされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 故障は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
- 据付工事に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカー」を必ずOFFする。
- 点検・修理にあたって、電源ブレーカーがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- バルブやガードを外した状態で運転しない。
- 機器の回転物、高温部、高電圧部に触ると、巻き込まれたり、やけどの感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。
- 感電、故障や動作不良の原因になります。

△注意

- アース（接地）を確実に行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 漏電遮断器は必ず取り付ける。漏電遮断器が取り付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器+ B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。瓦斯ガスが室内ユニットの周囲に漏ると、発火の原因になることがあります。
- 腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、漏留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。
- 洗濯槽など、水の掛かる所では使用しない。室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
- 食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。保存物の品質低下などの原因になることがあります。
- 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器の誤作動や障害を引き起こすことがあります。
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- 次の場所への据付けは避ける。
 - ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
 - ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アノニアなど、・ガス炉・繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
 - ・油の飛沫や蒸気が多い所（理容場、機械工場など）・車両・船舶等移動するもののへの設置
 - ・化粧品・特殊なスプレーを頻繁に使用する所
 - ・高周波を発生する機械を使用する所
 - ・海浜地区等塩分の多い所
 - ・煙突の煙がかかる所
 - ・カーポート・繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
 - ・車両・船舶等移動するもののへの設置
 - ・化粧品・特殊なスプレーを頻繁に使用する所
 - ・積雪の多い所
 - ・標高1000m以上の所
 - ・性能を落としてしまう原因になります。
- 次の場所への室内機の据付けは避ける。（機種により異なる制限があるため、その指示に従うこと。）
 - ・吸入口、吹出口に風の障害物がある所
 - ・強度が不十分で振動が発生する所
 - ・人感センサ搭載パネルは次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
 - ・ワイヤレス機の場合は、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
 - ・長時間振動が加わる状態
 - ・高周波に影響される機器のある所（TVおよびラジオ等の近傍）
 - ・静電気や強い電磁波のある場所
 - ・長時間高温・多湿になる場所
 - ・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れ及び損傷を与える恐れのある場所
- エアコンの下部には、漏れているものは置かない。湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じことがあります。
- 長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になります。
- 室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニットへのスパッタの進入を防止する。溶接作業などで発生するスパッタは室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ヒンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になります。
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。不確実な場合、屋内に浸水し、財物などを濡らす原因になります。
- GHP（ガスヒートポンプ）の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になります。
- 冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。
- ドレン配管は下り勾配（1/100以上）として、中間越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露し、露たれなどを発生し、天井・床・壁その他、大切なものを濡らす原因になります。
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。小動物が侵入して、内部の電気部品に触れる所、故障や発煙・発火の原因になります。
- 商品の運搬は十分注意してください。20kg以下の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。素手でフィンなどに触るとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
- 梱包材の処理は確実に行う。梱包材にケガなどの金属がある場合は、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。
- エアフィルタを必ず取付ける。内部に油・ゴミなどを詰まり、故障の原因になります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。感電の原因になります。
- 運転中の冷媒配管を手素で触れない。運転中の冷媒配管は流れ込む冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触ると凍傷や、やけどになります。
- エアコンを水洗いしない。感電の原因になります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。
- 電源ブレーカーによるエアコンの運転や停止をしない。火災や水漏れの原因になります。

○本機は高静圧ダクト機です。
直吹きでは使用しないでください。



①据付の前に

- 据付はこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。

○機種・電源仕様 ○配管・配線・小物部品 ○付属品

付属品

本体吊り込み用	ドレン配管用			
	パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	ドレンホース	ホースクランプ
①	8個	1個	1個	1個
ユニット吊下げ用	ドレンケット 断熱用	ドレンケット 断熱用	ドレン配管 接続用	ドレンホース 取付用

付属品収納場所（梱包時）



②室内ユニットの据付場所の選定

①据付け場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

・冷風または温風が十分に行きわたる所。

・据付け高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーチューレータの併設をご指導ください。

・据付け・サービス時の作業スペースが確保できる所。

・ドレン排水が確実にできる所。ドレン配管のとれる所。

・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。

・侵入外気の影響のない所。

・直射日光の当たらない所。

・周囲の露点温度が28°C以下、相対湿度80%以下の所。

・本室内ユニットはJIS露点条件（室内：27°C/78%RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度露点気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管・ドレン配管に10～20mmの断熱材を取付けてください。

・テレビ、ラジオよりも1m以上離れた所。（映像の乱れや雑音があります。）

・室内ユニット直下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。

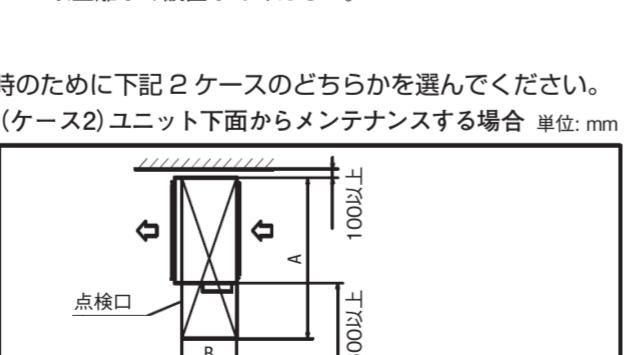
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。

・蛍光灯、白熱灯よりもできるだけ離れた所。

・ワイヤレス機器の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができないことがあります。

②据付け高さは2.5m以上としてください。据付時、サービス時のために下記2ケースのどちらかを選んでください。

（ケース1）ユニット側面からメンテナンスする場合 単位: mm



(点検口サイズ)		単位: mm
		224-280
		224-280
		224-280
		1900
		880

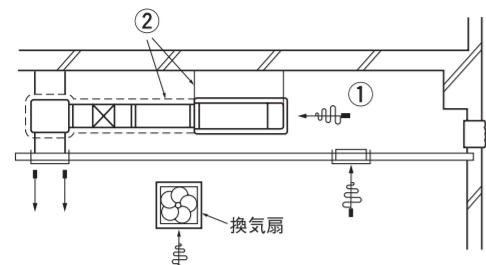
③給気処理ユニットの据付時の注意

- ①給気処理ユニットは吸込センサの検知温度とリモコン設定温度に基づき、発停を制御しております。
- リモコン設定温度は発停を制御する外温を示しています。冷房モードでは、サーモOFFとなると、外気を直接室内に吹出す風モードに変わります。

⑥ダクト工事のつづき

- ①エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。掃除の容易な吸込グリルにエアフィルタを組込んでください。
- ②消音チャンバーは据付ける室内的許容される騒音値によって取付けてください。
- 特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。(事務所、会議室などでは必ず取付けること)
- ③エアコン本体の振動が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャンバス継手、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
- ④OAダクトの接続口には、据付後の風量調節ができるよう、風量調節ダンバを取り付けてください。
- ⑤吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
- ⑥天井面に点検口を必ず設けてください。電気品、モータ、機械品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
- ⑦ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。保温材の厚さは6.5mm (JISA9501)です。
- ⑧送風機(ファンモータ)に手が触れないようにダクトを接続してください。または吸込側を直吸込みで使用する場合は吸込口にエアフィルタを取り付けてください。

ダクト施工の悪い例



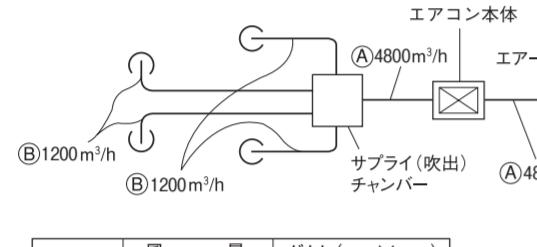
空気条件 風量限界	
店舗VXPシリーズ	224,280
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	224,280
最大風量 (m³/min)	88
室内側空気温度 乾球温度 (°C)	32
湿度 (°C)	29
給気処理ユニット	224,280
最大風量 (m³/min)	50
ユニット吸込 乾球温度 (°C)	32
空気温度	29

①吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気ガラリに吹き付ける風の強さ、天候(雨の日など)等により天井内が高湿度となります。
 ②室内ユニットは上表の空気条件及び風量限界内で使用してください。コンクリート建築などで新築の場合も天井内ダクトにしなくとも湿度が高くなることがあります。この場合は室内ユニット全体をグラスウール(2.5mm)で保温してください。
 ③室内ユニットの運転限界(例:外温3.5°C DBのとき吸込空気温度2.4°C WB)をこえる場合も考慮され、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。
 ④換気扇の能力、外気ガラリに吹き付ける風の強さによって室内ユニットの送風量が多くなり使用制限をこえてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンへ流れず、外部に流れ出さざるを得ません。(天井にドレンが滴下する)水漏れの原因となります。
 ⑤室内ユニットとダクト、室内ユニットとダクトの防振をしないとダクトに振動が伝わり、天井と吹出口の間で振動音が出たり、スラブに室内ユニットの振動が伝わることがあります。必ず防振してください。

簡単なダクト寸法の決め方

ダクトの単位長さ当たり摩擦抵抗を1Pa/mとして、ダクトは一边が250mmのものを使用する場合の方法を示します。

280形定格風量の場合を例とします。



簡単なダクト寸法選定図	
ダクトの形	角ダクト
項目	寸法
m³/h (m³/min)	(mm×mm)
100	250×60
200	250×90
300	250×120
400	250×140
450 (7.5)	250×160
500	250×170
600 (10)	250×190
800	250×230
1,000	250×270
1,200 (20)	250×310
1,400	250×350
1,600	250×390
1,800 (30)	250×430
2,000	250×470
2,400 (40)	250×560
3,000 (50)	250×650
3,500	250×740
4,000	250×830
4,500	250×920
5,000	250×1000
5,500	250×1090
6,000 (100)	250×1180

ダクト抵抗の計算(簡便に下表の如く計算する)		
直 管	部 長さ1m当り1Paで計算する1Pa/m	
①部	4800m³/h (80m³/min)	250×950
②部	1200m³/h (20m³/min)	250×310
吹 出 部	曲り部	1個で0.5Paで計算する
チ ャ ン バ ー	吸込グリル(フィルター付)	1個で40Paで計算する

⑦冷媒配管のつづき

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
冷媒R22で使用していた既設配管を使用する場合は、下記点を注意してください。
・薄肉配管の使用は避けてください。
- 冷媒配管は、リーン脱酸銅合金継目無鋼管(C1220T, JIS H3300)をご使用ください。
また管の外表面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切削等(コンタミ)の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。
- R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。
R410A以外(R22等)の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂等の原因になります。

5

⑦冷媒配管のつづき

●据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともロウ付けする直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はR32またはR410A専用ツールを使用してください。

●室内機配管はサービスパネルを取り外し可能とするため配管方向がどのような方向でも必ず室内ユニットから400mm以上のストレート部分を設けてください。

作業手順

1. ②号付作業時は、ろう付部周囲を過熱しないように濡れタオル等で冷やしながら実施してください。
2. 室内機のろう付け部は、ガス漏れチェック後、断熱材(現地手配)をかぶせてください。
 ●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
 ※配管は断熱しないと結露し水漏れします。現地にて断熱材を手配し断熱してください。
- ガス側配管の断熱は耐熱120°C以上のものを使用してください。
- 高温度露点で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化させてください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
3. 冷媒は室外ユニットに充填されています。室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

機種	液配管/ガス配管	サイズ
店舗VXPシリーズ	液配管	ø9.52
	ガス配管	ø25.4
ビル空調シリーズ	液配管	ø12.7
	ガス配管	ø25.4
ビル空調シリーズ ガスヒートポンプシリーズ 給気処理ユニット	液配管	ø9.52
	ガス配管	ø19.05
	液配管	ø9.52
224形	ガス配管	ø22.22

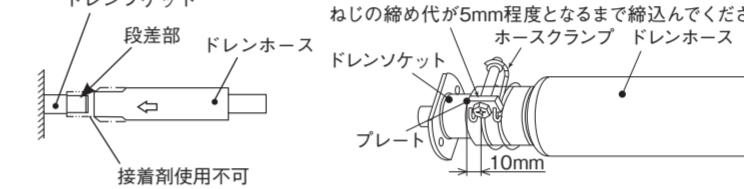
⑧ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合は、屋内に漏水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

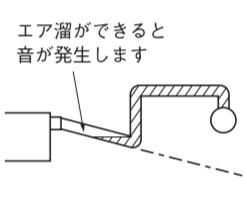
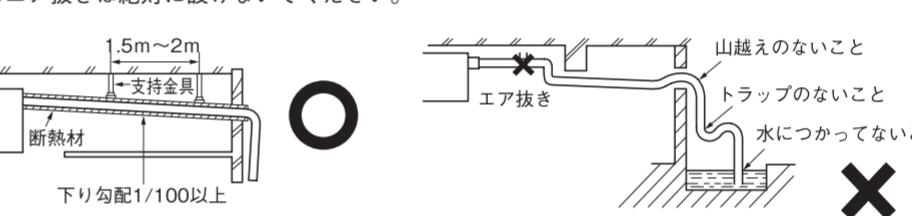
作業手順

1. 付属のドレンホース(軟質塩ビ端)はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm程度のところに取付け、ねじの締め代が5mm程度となるまで締込んでください。
- 接着剤使用不可



2. ドレンホース(硬質塩ビ端)に、VP-25用継手(現地手配)を接続し、接続してください。
 ※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
- 接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
 乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
- ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。

3. ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
- ドレン配管を接続する場合に室内ユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。
- エア抜きは絶対に設けないでください。

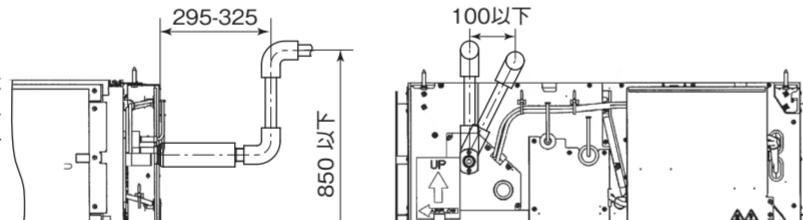


⑨電気配線取出位置および電気配線接続

- 複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はVP-30以上を使用してください。
- 4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。
- 結露が発生し、水漏れをおこすことがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
- ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、天井面より850mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法で処理願います。

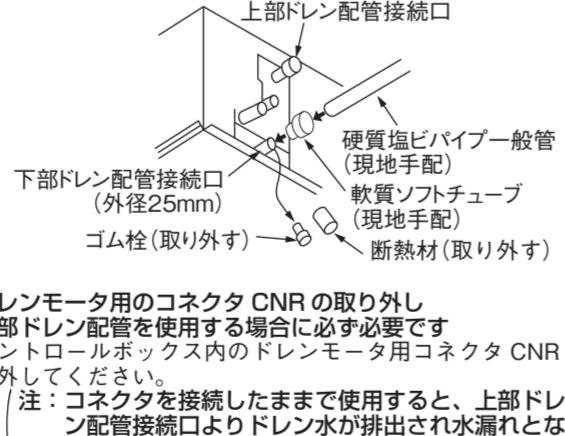


ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部および室内ユニットのドレンパン部からの水漏れがないことを確認してください。
- 暖房期の場合は天井を張る前に実施してください。

下部ドレン配管工事要領 [配管接続]

ドレン配管に下り勾配(1/50~1/100)が可能な場合
下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



⑩機外静圧設定

⑩機外静圧設定

ECOタッチャリモコン(RC-DX2以降)を使用し、機外静圧を設定することができます。

定格風量によるように各タップのファン回転数を変化させます。

店舗シリーズをツイン機として設定する場合は、室内ユニット同士が同一風量になるように個々に設定してください。

ECOタッチャリモコンからの設定方法

①メニュー画面より据付設定を選択し、サービスパスワードを入力します。

②据付設定メニューより、ダクト機静圧補正を選択します。

③▲、▼で機外静圧を設定し、「セット」をタッチしてください。

(“AUTO”を選択した場合は、150Paで設定されます。)

詳細な設定方法については、ECOタッチャリモコン付属の据付説明書を参照ください。

風量特性については、技術資料を参照ください。

・RC-DX2以降のECOタッチャリモコン以外からは設定できません。

静圧設定上の注意

実際の機外静圧を計算し、設定してください。

実際の機外静圧よりも機外静圧設定が高い場合には風量が過大となり、水漏れが発生する恐れがあります。また、実際の機外静圧よりも機外静圧設定が低い場合には風量が過小となり、不冷・不暖の原因になります。

工場出荷状態では上記のリスクを減らすため、機外静圧設定範囲を80-150Pa(給気処理ユニットは10-120Pa)としております。実際の機外静圧は80-150Pa(給気処理ユニットは10-120Pa)の範囲で使用してください。実際の機外静圧が80Pa(給気処理ユニットは10Pa)より低い場合には水漏れとなる恐れがあります。